

ひとり情シスのIです。

今日は、Windows10に移行するときに、業務で使用するが使えなくなるソフト、あるいは、もう必要ないソフトの見極めが必要という話です。

これはWindows7のPCで今まで使用していたソフトが、Windows10にすることによって、使用できなくなったりすることがあります。パッケージあるからこれまた入れればいいと思っていると、使えなくて、後で追加購入を余儀なくされることがあります。

実なそのようなソフトは少なくなく、例えば、ATOK2010はWindows10では動作保証外となっていたりします。古くても使えるというレベルでなく、Windows10の64ビットバージョンには、インストールすらできません。

前にちょっと書いたかもしれませんが、古いプリンタの中にはWindows10用のドライバを用意していないものもあります。また、Photoshop CS2も互換モードを利用してインストールしても、起動ができません。

こういうのは買い切りのソフト特有の問題です。サブスクリプション形態では、常に最新のものが使用できるため、逆にこのような問題は起こりません。

それとは反対に、Windows10になって必ずしも必要なくなるソフトもあります。

一つはウイルス対策ソフトです。Windows7にはファイアウォールは入っていますが、ウイルス対策ソフトは別にインストールする必要がありました。今はOS標準の機能で入っているため、別に買わなくても問題ありません。不安な人はノートンとか買って入れてもいいですが。

あとはPDF作成ソフトです。具体的な製品名だと、いきなりPDFとかJustPDFとかです。Windows10では標準でPDF作成用のプリンタドライバが組み込まれているので、別にソフトをインストールする必要はありません。

あとは、仮想CD-Rドライブを作るソフトでVirtual CloneDriveとかありますが、これもWindows10ではマウントという標準機能でできるようになりました。

Windows10では色々な機能がOSに組み込まれるようになってきているので、今まで使っていたソフトが本当に必要かどうか、詳しい方に聞いてみるとよいかもしれません。すでにWindows10に移行している会社さんも本当にそのソフトは必要か、見直すことをおすすめします。

そんなわけで、続きはまた明日。(I)